

登録コード	J5280300	開講年度	2026			
授業科目	法と経済学				担当教員	廣瀬 純夫
英文授業名	Economic Analysis of Law				副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・3時限	対象学年
講義室	経法第3講義室		授業区分	講義	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】	
	経法23加（2026改）・応用経済，経法23加・応用経済，経法20加・応用経済					
	専門知識を応用・実践する力として，計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価，実験経済学による社会制度の機能の検証，医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘，法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証，などのスキルを習得し，経済の実情に即した政策提言，あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。				経済学の分析手法によって法制度の役割を解釈するという新たな視点を身に付けることができる．	
	【2020年度以降加わら対象】専門領域での基礎知識として，経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。そして，経済理論の応用分野として，金融，公共政策，法や制度の経済分析をテーマとする3つの専門コースで，専門知識を具体的な問題解決に実践する力を身につける。				情報の経済学やゲーム理論といったミクロ経済理論の分析手法を応用することで，コーポレート・ガバナンスや，解雇規制，知的所有権の問題など，現実の社会で問題になっている事象について，問題の所在を，的確に理解できるようになる．	
	経法23加（2026改）・総合法律，経法23加・総合法律					
	環境問題や，企業や行政の組織内において，日々生起する諸問題について，理工学分野や経済学分野の思考方法にも一定の理解を持ち，総合的に解決していくことのできる能力を身につける。				環境問題や，企業や行政の組織内において，日々生起する諸問題について，経済学分野の思考方法にも一定の理解を持ち，総合的に解決していくことのできる能力を身につける．	
(2)授業で学べる「テーマ」	キャリア					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	企業買収に関連する問題などに代表されるように，商法，会社法といった経済活動に直接関わる法律は，経済学的視点による解釈が，従来の法解釈へも影響を与え始めています．また，昨今問題となっている従業員の解雇に関連して，解雇権濫用の法理についても，雇用環境や企業活動全般へ，解雇規制がどのような影響を及ぼすのか，経済学の分野では議論が展開されています．この講義では，情報の経済学やゲーム理論といったミクロ経済理論の分析手法を解説した上で，企業金融や企業統治，解雇規制，知的所有権などのトピックスを中心に問題を取り上げ，法制度解釈への応用例を紹介していく予定です．					
(5)授業計画	第1回 法と経済学入門（借地借家法の影響） 第2回 ゲーム理論による不法行為法の分析（1）厳格責任ルールと過失責任ルールの効果の違い 第3回 ゲーム理論による不法行為法の分析（2）現実に用いられている責任ルールの検討 授業で解説した“同時手番ゲーム”を応用した，不適切な所有権設定の問題を考える小テストを，eAlps上で実施（受験は，授業時間外） 第4回 ゲーム理論による雇用契約の分析(1)不完備契約と，所有権割当の効果 第5回 ゲーム理論による雇用契約の分析(2)解雇規制が雇用市場へ及ぼす影響 第6回 ゲーム理論による雇用契約の分析(3)解雇規制と企業関係特殊投資との関係 授業で解説して“解雇規制と企業関係特殊投資との関係”について考える小テストを，eAlps上で実施（受験は，授業時間外） 第7回 コースの定理と法制度の意義(1)所有権の役割についての整理とコースの定理 第8回 コースの定理と法制度の意義(3)取引費用の存在と法制度の存在意義 第9回 コースの定理と法制度の意義(4)コースの定理と契約不履行への救済 授業で解説した“逐次手番ゲーム”を応用した，コミットメントの効果を考える小テストを，eAlps上で実施（受験は，授業時間外） 第10回 ゲーム理論による契約法の分析(1)コミットメントと契約法の役割 第11回 ゲーム理論による契約法の分析(2)参入阻止行動の分析 授業で解説した“参入阻止行動”に関する小テストを，eAlps上で実施（受験は，授業時間外） 第12回 ゲーム理論による契約法の分析(3)負債契約の役割 第13回 ゲーム理論による契約法の分析(4)倒産処理法の役割 モラル・ハザードのモデルを応用した負債契約の役割，および，倒産処理法の役割を考える小テストを，eAlps上で実施（受験は，授業時間外） 第14回 銀行預金の存在による効率性の改善 第15回 預金保険による非効率なナッシュ均衡の排除，アンケート実施 銀行預金の役割および，預金保険が及ぼす効果に関する小テストを，eAlps上で実施（受験は，授業時間					

(5)授業計画	外)
(6)成績評価の方法	授業内容の理解度を確認する小テストと、期末試験を用いて評価します。 まず、5～6回程度、eAlps上で小テストを実施します。それぞれ10点満点で、5回実施であれば、合計点が、50点満点の点数が成績評価対象になります。 期末テストは、100点満点です。 その上で、成績評価は、期末試験の点数を優先して、評価対象の点数とします。 次に、期末テストの点数が60点未満の場合、小テストの合計点と期末テストの点数の合計点が60点以上の場合、成績評価上の点数を60点として評価します。
(7)成績評価の基準	授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」
(8)事前事後学習の内容	特に予習を行うことは求めません。初めて学ぶ概念も多いと思います。講義の内容については、毎回レジュメを配布しますので、講義の後に十分に復習をして下さい。復習の過程で不明な点や理解できない点が出てきた場合、必ず担当教員に質問するよう心掛けてください。経済学の分析による帰結は、普段、直観的にイメージしていることとは異なることが少なくありません。学習した内容をすぐに確認し、理解するように努めてください。
(9)履修上の注意	ミクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅱ、ゲーム理論入門を履修していることを前提として講義を進めます。特に、情報の経済学やゲーム理論の分析テクニックは、必須となりますので、ミクロ経済学Ⅰとゲーム理論入門の内容を、よく復習しておいて下さい。 暗記を求める講義内容ではないため、一夜漬けで習熟することは難しいでしょう。講義を理解する上では、配布する講義資料を参考にして、日頃から、毎回の講義内容を必ず復習しておくことが肝要です。なお、経済法の講義ではないので、注意して下さい。
(10)質問、相談への対応	オフィスアワーの時間は、木曜日4限とします。
【教科書】	講義は、講義担当者作成の講義資料に基づいて進めますが、この分野の標準的な教科書とされる、ステイブーン・シャベル「法と経済学」（日本経済新聞出版社、2010年）からの引用が多くなる予定です。自主的な学習に際しても、参考になるでしょう。
【参考書】	柳川範之「法と企業行動の経済分析」（日本経済新聞社、2006年） 瀬下博之、山崎福寿「権利対立の法と経済学—所有権・貸借権・抵当権の効率性」（東京大学出版会、2007年） 三輪芳朗、神田秀樹、柳川範之「会社法の経済学」（東京大学出版会、1998年） 神林龍編著「解雇規制の法と経済 労使の合意形成メカニズムとしての解雇ルール」（日本評論社、2008年） ロナルド・H. コース「企業・市場・法」（東洋経済新報社、1992年） 穴戸善一・常木淳「法と経済学」（有斐閣、2004年） その他、適宜、文献を授業中に紹介する。